

触れ合い通じて命の大切さ学ぶ

8月3日、くずま〜るで思春期ふれあい体験学習が行われ、田澤和珠さん(2年)と緑川葵巳さん(同)が参加しました。

この体験は、乳児との触れ合いを通して命の大切さを学び、たくさんの人の協力で成長してきたことの再認識を目的に毎年町が行っています。参加した2人は、保健師や助産師の話聞いて気になることを質問したり、乳幼児相談では実際に赤ちゃんを抱かせてもらうなど親子と交流しました。葵巳さんは「子どもの力が意外と強くてびっくりした。保健師の仕事についても、調べるだけでは分からないことを聞くことができた」と話し、有意義な体験になったようでした。



子どもと触れ合いお母さんから話しを聞く生徒たち

職場体験で知る自分の適正

7月から8月にかけて、2、3年生の希望者が公共施設や第3セクターなど町内の11事業所でインターンシップを行いました。

役場のまなび交流課では、加藤美季さん(2年)と小山多嘉良さん(同)の2人が図書室の業務や公民館施設の管理業務を体験し、慣れない仕事に懸命に取り組んでいました。美季さんは「分からない時はすぐ確認したり、作業が終わったら報告するなどコミュニケーションが大切だと感じた」、多嘉良さんは「いろいろな仕事を体験して、集中力が必要な細かい仕事は自分に向いていると思った」と話し、仕事に必要なスキルや自身の適性を知るきっかけになったようでした。



まき×まきホールの移動式観覧席を見学

先輩から学ぶ看護職の仕事

看護の出前授業



△看護職の仕事を紹介した皆さん(左から)冬澤実奈未看護師、藤森明美保健師、福田葵助産師、▷看護技術の体験で血圧測定を実践する生徒たち



7月31日、公益財団法人岩手県看護協会による看護の出前授業が開催され、2、3年生7人が参加しました。授業では協会の職員が看護師、保健師、助産師の3つの看護職の仕事について、役割の違いや資格取得の流れなどを説明。その後、同校の卒業生で看護師の冬澤実奈未さん(葛巻病院)と同じく卒業生で保健師の藤森明美さん(町健康福祉課)および助産師の福田葵さん(県立二戸病院)の3人がそれぞれの仕事を紹介しました。冬澤さんは「患者の想いに寄り添い、心と体の両方をサポートしている」、藤森さんは「一人一人の健康意識を高めるために、常に工夫が必要」と日々の仕事の心構えなどを話しました。また助産師の福田さんは「死産など辛い場面遭遇することもあるが、女性の人生に関わるやりがいのある仕事」とその魅力を紹介

医療や福祉を志す皆さんを応援

町では「看護職員等養成就学資金」で看護師、薬剤師、社会福祉士など未来の医療や福祉を支える人材を養成しています。これまでに、葛巻高校卒業生など10人がこの制度を活用しています。詳しくはお問い合わせください。

町健康福祉課 ☎65-8991



しました。生徒たちは、町民の健康を支えている先輩たちの話と、身近に聞く機会の少ない助産師の仕事の話に熱心に耳を傾け、「それぞれの仕事の違いが良く分かり関心を持って将来地域医療に関わりたいと思った」など感想を話し、看護職の仕事に理解を深めていました。

町学習塾生が七戸町の塾生と交流

8月19日、葛巻町学習塾で、塾生8人が青森県七戸町公営塾柏葉塾の塾生5人を迎え交流会を行いました。

柏葉塾は葛巻町学習塾をモデルに令和3年に開講し、本町と同じく(株)Birth47が運営しています。今回の交流会は、町や高校の特色について相互に理解を深め、郷土愛を育もうと企画されました。

ゲームなどを通じて打ち解けた塾生たちは積極的に発言。葛巻町塾生による町の紹介を聞いた七戸高校の山崎広翔さん(2年)は「ワイン工場には1度行ったことがあるが、説明を聞いてまた行ってみたいと思った」と関心を深めた様子でした。



町の紹介をする葛巻町の塾生(円内)と山ぶどうの原液を試飲しながら聞く両町の塾生



夏休みの課外授業



丸山晃奈(2年)

まだまだ暑い日が続くようです。皆さん熱中症に気を付けてくださいね!



高校生記者レポート



厳しい暑さが続き、溶けてしまいそうな毎日です。皆さんはどう過ごしていますか? 私は暑さが苦手なので、かなり憂鬱な気持ちになりました。夏季休業中、B組では夏季課外が行われました。1、2年生は1週間、3年生はおよそ3週間も続き、夏休み中はほぼ毎日登校しました。課外では普段の授業の続きや、模試や小論文の対策を行います。大変ですが、自分のレベルを上げるため先生方の指導をしっかり受けています。

私が所属する2年B組でも、みんな一生懸命机に向かっていました。暑さと疲れでたまにうめき声が聞こえてきますが、生徒同士励まし合い授業に集中していました。課外が終わっても、課題や



夏季課外の様子